

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉農業高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和4年4月22日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>1. 基礎・基本の定着と学力の向上 2. 基本的生活習慣の確立 3. 地域連携と特色ある教育活動 4. 進路意識の向上と進路保障 5. コミュニケーション能力の向上</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>1. 昨年と同様に長期インターンシップ、就農促進事業、大学との連携、資格取得等の充実を図る。(新しい生活様式の中での充実)</p> <p>2. 2年次インターンシップにおいて、研修前後の学習を充実させることで進路意識の高揚と、具体的進路先の選定に資する。</p> <p><数値目標></p> <p>1. スーパー農林水産業士の5名以上の認定</p> <p>2. 生物科の農業系大学等の農業関連進学率が全進学希望者の50%以上</p> <p>3. 環境科、食品科の農業系大学等の進学率が全進学希望者の30%以上</p> <p>4. 農業及び学科関連産業への就職率が全就職希望者の50%以上</p> <p>5. 資格取得の延べ合格者数300名以上</p> <p>6. 高難易度の資格(アグリマイスター、農業技術検定、測量士補等)の合格者数の増加</p>	<p>1. コロナ禍であったが、スーパー農林水産業士育成カリキュラムとしての長期インターンシップや県中部の優良農業経営体を見学、意見交換する就農促進研修会は万全の感染対策を取りながら実施した。結果として例年の国公立に加え、私立の農業系四年制大学進学者が1名あった。</p> <p>2. 資格取得に関しては昨年以上の実績を残すことができた。特にアグリマイスタープラチナに2名認定されたことは特筆に値する。</p> <p>3. 2年次インターンシップは、体験希望先が多岐に渡ることと開催時期のコロナ感染症の状況から中止とした。一方で資格取得にチャレンジする生徒や農業および関連産業への就職希望者数に増加傾向が見られる。</p> <p><数値結果></p> <p>1. スーパー農林水産業士5名の認定</p> <p>2. 生物科農業関連学校進学率67%</p> <p>3. 環境科、食品科関連学校進学率21%</p> <p>4. 農業及び学科関連産業就職率46%</p> <p>5. 資格取得者延べ278名 高難易度資格(アグリマイスタープラチナ2名、ゴールド2名、シルバー3名、農業技術検定2級2名、測量士補0名、危険物取扱乙種4類1名)</p>
3 実施事業	
<p>1 農業の魅力づくり・発信事業</p> <p>生物科：乗馬指導について学ぶ、羊の活用、青パパイヤの地域普及活動</p> <p>食品科：のうこう市場販売実習、食品安全マネジメント規格(JFS-B)の取得、米の食味コンテスト出品・入賞</p> <p>環境科：JR倉吉駅オリジナル花壇などの制作、舗装実習、建設等現場研修会、 など各学科の学習内容を深化させ専門人材の育成に努めた。</p> <p>また、大型特殊自動車免許、フラワー装飾、造園技能検定、サービス接遇検定、日本農業技術検定など資格取得</p>	

を推進した。

2 進路実現推進事業

- ・大学との連携：鳥取大学農学部を訪問し、本校卒業生との座談会や施設見学、授業体験を実施した。
- ・就農促進研修会：就農についての具体的なイメージを持たせるため、希望者を募り、本県中部の若手農業経営体の視察および懇談会を実施した。
- ・卒業生による進路講演会：卒業後それぞれの学科の学びを活かした就職先で活躍している身近な先輩の講演会を実施した。
- ・長期インターンシップの実施：スーパー農林水産業士を目指す2年生5名、3年生5名が主に長期休業中にのべ10日間にわたる農林業の現場における就業体験を実施し、より具体的な就農についてのイメージを持つことができた。

4 総合所見（成果・評価）

- ・令和3年度もコロナ禍のため、2年生インターンシップをはじめ幾つかの事業を中止せざるを得なかった。一方で、感染症拡大防止に努めながら実施できた事業の成果は、農業関連の進学・就職割合（42.2%、35名/83名）として現れていると評価しており、近年来増加の傾向を示している。（R2：38.6%、R1：35.6%、H30：30.7%、H29：25.0%）
- ・地域貢献や地域連携による事業（青パパイプロジェクト、のうこう市場、北谷販売、JR倉吉駅の環境美化など）を推進し、地域に開かれた学校および農業教育を実践し、地域への情報発信は概ね出来ていると評価している。
- ・一方で少子化の影響も有るとは言え、入学生徒充足率の低下が著しく、中学生に本校で学びたいと思わせる教育内容や進路開拓については今後も継続して取り組まなければならない最重要課題であると捉えている。